

平成 19 年 8 月 2 日

諏訪南行政事務組合
組合長 柳平千代一 殿

「八ヶ岳周辺のゴミ問題を考えるネットワーク」

灰溶融炉を考える会 呼びかけ人

茅野市金沢 3956-44 河西章

富士見町富士見 8255 細川宏子

原村 16267-101 小林峰一

八ヶ岳なんでも気にする若者の会 代表

原村 18014 篠崎 美和

八ヶ岳周辺のごみ問題を考える女性の会 呼びかけ人

富士見町境 1561-2 遠藤誠子

連絡先

〒391-0108 原村 16267-101

電話 0266-79-6977 小林峰一

灰溶融施設建設予定地周辺で活断層調査を行い、建設予定地として適切な場所か再検討するよう求める要望書

諏訪南行政事務組合が富士見町休戸に計画している灰溶融施設の建設予定地近くには糸魚川・静岡構造線の若宮断層（活断層）があります。信州大学副学長の小坂共栄教授（構造地質学）と一緒に予定地周辺を踏査した結果、糸魚川・静岡構造線と同じ方向に走る断層をいくつも確認しました。建設予定地一帯は、近くにある活断層に関連した断層地帯の可能性があります。

灰溶融施設の近くに活断層が存在する場合には、地震によって炉の破損など重大な事故につながる可能性が高くなります。このことは最近発生した新潟県中越沖地震により、現在も操業を停止している柏崎刈羽原子力発電所内で起こった火災事故や放射性物質を含んだ冷却水漏れ事故などの原因が、施設の近くに存在する活断層の影響だったことから明白です。特に 1200 度以上の高温で処理する溶融施設の場合には、炉が破損し溶融物が流れ出してしまうと緊急停止をしたところで事故は回避できません。建設予定地のすぐ横には河川もあることから溶融物が流れ出した場合には水蒸気爆発が起こる可能性も高く、周辺地区まで影響が及ぶことが懸念されます。また近くにある食品関係の工場や農作物にまで風評被害が及ぶことも考えられます。

組合が行った灰溶融施設建設に伴う生活環境影響調査の報告書（平成 17 年 7 月）の中には、建設予定地周辺の地質について次のように記述されています。

「富士見町の南西側は赤石山脈の北端で、この山脈の東側を糸魚川・静岡構造線といわれる大きな断層が走り断層崖を作っているため、山腹の傾斜は大変急で平坦地が少なくなっている。また建設予定地のある富士見町の西山方面は、地質が脆弱なうえ急傾斜地のため、ここを流れる河川は激しい洗掘により崖状の侵食谷を形成しており、山地災害を起こしやすい地形となっている。」

さらに建設予定地は、長野県発行の土砂災害危険地域ハザードマップでも、土石流危険地域に指定された場所となっています。

このようなことから、建設予定地周辺の活断層調査を早急に行い建設予定地として適切な場所かどうかについて再検討することを強く要望いたします。

なお、この要望書に対する回答を文章にてお願いします。